

学習成果レポートⅡ（帰国後報告） 2023 年度 2 期発

基本情報

留学先大学	アメリカ・デラウェア大学				
留学制度	TESSⅡ	留学期間	半年	学科	英語教育専攻
留学形態	実際に渡航しての留学				
履修コース	語学コースのみ				

学習面

授業理解度	問題なく理解できた
学習成果	session が変わり、同じ授業を受ける日本人の生徒の数が減って中東系の方の人数が増えました。共通語が英語しかないため、必然的にコミュニケーションを全て英語で取ることになりました。そこで自分の気持ちを英語で表現することが増えたので、先生に対して使う英語だけでなく友達に使う英語も学ぶことができ、自分の英語の表現の幅が広がったと感じています。授業外では現地の学生と交流することが多く、ネイティブの英語と同じ英語学習者の英語どちらにも触れて、リスニングが強化されたと思っています。
目標達成度	おそらく達成できた（スコア/成績未入手の場合など）
努力したこと、効果があった勉強方法、反省している点など	授業内でもやっていた Ted talks で観た動画の内容を自分の言葉で説明するという勉強方法を自習で行っていました。聞いて、まとめて、発表する技能を全て同時に鍛えることができました。それを現地の友達に聞いてもらって、改善していくという勉強方法を続けていくうちに、一つの動画にかかる時間が短くなっていることに気が付き、自分の英語力が上がったことを実感しました。

生活面

友人関係や生活の満足度	満足
その理由	違う県から来ている日本人の友達やアメリカの現地の友達、違う国から英語を学びに来ている友達など様々なコミュニティで違うバックグラウンドを持った人と関わる機会が多くあり、留学をしていなかったら一生知ることではなかったであろうことをたくさん教えてもらい、たくさん経験できたことにとても満足しています。
中間報告からの変化	あまり大きな変化はありませんでしたが、日本人同士での交流が少し増えたと思いました。日本人同士でも英語を話すなど英語漬けの日々を送っていたらもう少し英語が上達したのかなと反省しています。
良かった点、特に配慮した点、反省した点など	積極的にたくさんの人と話をする事で友達をたくさん作ることができ、困ったときに助けてくれる人がいるという安心感がありました。ルームメイトとは生活習慣が真逆で、私が起きる頃はルームメイトはまだ寝ていて、私が寝た後に部屋に帰ってくるような状態でした。その為、お互いに起こさないようにして気を遣いすぎて、部屋であまりリラックスできませんでした。もう少し思っていることをお互いに話し合えたらよかったと思います。

学習成果レポートⅡ（帰国後報告） 2023 年度 2 期発

基本情報

留学先大学	イギリス・ケント大学				
留学制度	TESSⅢ	留学期間	1 年	学科	現代英語
留学形態	実際に渡航しての留学				
履修コース	主に学部を履修（+語学科目を一部履修する場合も含む）				

学習面

授業理解度	問題なく理解できた
学習成果	現地で大学の講義を受け、セミナーに参加することで、細かい語彙の表現など一年を通してさらに語学の能力が向上し、留学初期に比べて生活に慣れたことで自信がつき後期は授業にも積極的に参加ができたと感じる。
目標達成度	おそらく達成できた（スコア/成績未入手の場合など）
努力したこと、効果があった勉強方法、反省している点など	留学当初は長いエッセイに対して苦手意識があったものの、他の人が書いた論文やエッセイを学期を通してたくさん読むことで書くコツや技術が少しずつ上達し、後期に入る頃にはあまり苦手意識を持たず、課題に取り組むことができた。課題の提出が重なる期末にかけて少しずつ準備をしておこうと努力はしたものの、準備が行き届かずいくつかの課題は提出前に焦ってしまうことが何度かあったためその点は反省している。

生活面

友人関係や生活の満足度	やや満足
その理由	生活面で、フラットメイトと仲良くはしていたものの、金銭面で何度かトラブルになったため満足まではいかなかった。
中間報告からの変化	学校の友人関係は前学期と変わらず、特に問題はなく生活でき、期末のグループプロジェクトを通して仲を深めたクラスメイトが何人かいたため、もう少し早くから交流したかったなと少し後悔した点はあった。生活面では、帰国日が近づくにつれて現地の気候が良くなり、冬の間ずっと悪かった体調もよくなった。
良かった点、特に配慮した点、反省した点など	フラットメイトが皆留学生だった点もあり、家に何も無い状態から全て買い揃え、共有していた物も多かったため留学初期から何度か金銭的なトラブルがありました。その度に、お金の話は少し話づらい内容ではあったが、遠慮をせずにはっきりと相手に伝え、皆で直接話して解決をするということがとても重要であると感じた。そして、皆異なるバックグラウンドから来ているため、相手の文化に対して理解を深め、尊重できるように一年を通してハウスで色んなイベントを開き、コミュニケーションをとれるよう特に配慮をしていた。

学習成果レポートⅡ（帰国後報告） 2023 年度 2 期発

基本情報

留学先大学	カナダ・ブロック大学				
留学制度	TESSⅡ	留学期間	1 年	学科	英米語
留学形態	実際に渡航しての留学				
履修コース	主に学部を履修（+語学科目を一部履修する場合も含む）				

学習面

授業理解度	何とか理解できた
学習成果	並行してそれぞれの授業で課題やプレゼンがある中で、大切な要点や概要を掴んで取り組むことなどの時間や課題をやりくりするマネージング力が身についたと思います。
目標達成度	おそらく達成できた（スコア/成績未入手の場合など）
努力したこと、効果があった勉強方法、反省している点など	毎日の小さな継続の積み重ねを大切にするために、その日に取り組むことを朝や前日の夜に紙に書き出して整理していました。聞く、話す、読む、読むなどにかく色んな方法で英語に触れることを意識しました。 日記を書いたり実際に声に出して話したり、アウトプット型の勉強法が一番身になると感じていました。 英語力の低さなどの悩みを 1 人でどうにかしようとせずに、もっとオープンになって周りに相談したり、焦らずに目の前の環境を大切にできていれば、1 人で抱え込んでキャパオーバーすることが少なかったかなと感じています。留学は生活、イベント、授業での重要な日（ディベートやテスト）、体調も含めて、色んなことに波があって、それらを柔軟にやりくりしていくことが求められると思うので、人に頼ることが大切だなと感じました。

生活面

友人関係や生活の満足度	満足
その理由	本当に色んな国や地域から来ている人たちと関わることができました。友達を作るためのイベントやコミュニティもたくさんあり、充実していました。複数のコミュニティに関わる人ができると、気持ちの面での安心感が本当に大きくなりました。
中間報告からの変化	前期は ESL で日本人が多い環境での生活でしたが、後期からは学部授業が始まり、一気にいろんな国の人と関わる機会が増えました。
良かった点、特に配慮した点、反省した点など	仲良くなった友達に、何かイベントに参加することがあったらぜひ誘ってと声をかけておくと、イベントやグループに誘ってくれる人が多く、それをきっかけにさらに出会いが増えたり、友達や、信頼して相談できる大人に出会うことができました。 ただ、自分の体調や気持ちよりも、周りのことを優先させてしまい、自分自身が苦しくなってしまうことがありました。行動することも大切ですが、まず自分にとって何がストレスなのか、自分の状態を自分自身がしっかり理解すること、余裕のない時は焦らず自分の時間を作るために断ってよかったんだなと感じています。

学習成果レポートⅡ（帰国後報告） 2023 年度 2 期発

基本情報

留学先大学	ニュージーランド・ビクトリア大学ウエリントン				
留学制度	TESSⅡ	留学期間	1 年	学科	国際教養
留学形態	実際に渡航しての留学				
履修コース	主に学部を履修（+語学科目を一部履修する場合も含む）				

学習面

授業理解度	問題なく理解できた
学習成果	レクチャーを対面とレコーディングを用いて繰り返す聞くことでリスニング力が特に向上したと感じる。 ニュージーランドの先住民についての教科を履修したことでその土地の文化についてより理解が深まった。
目標達成度	おそらく達成できた（スコア/成績未入手の場合など）
努力したこと、効果があった勉強方法、反省している点など	強制参加のレクチャーはもちろんのこと、任意参加で開講されているチュートリアルという少人数クラスでのディスカッションやレクチャーで学んだことを更に深めるための授業に毎週参加した。そこで得た学びがエッセイやテストを受ける際に活きたと感じた。生徒が復習できるよう授業のレコーディングを毎週提供している大学であるため、理解を深めることと聞き逃した部分を補うことを目的とし、1 授業につき最低 2 回は聴くように努めていた。

生活面

友人関係や生活の満足度	やや満足
その理由	後期の学部授業では多国籍の友達を多く作ることができたが、前期の語学クラスでは韓国、中国、日本人のみのクラス構成であったかつ、ほぼ半分が日本人であったため、違う国に来て英語を勉強しているという感覚が薄いように感じた。語学クラスがどのくらい日本人が占めているかという情報をあらかじめ入手できれば、国選びや大学選びの際にもっと活きたと思った。
中間報告からの変化	学部に入り、より多くの人と関わる機会が増えたことによって、ニュージーランド出身の友達や留学生の友達を多く作ることができた。留学生の友達も学部を受けているだけあって英語が流暢であったり、得意としているため、後期の学部授業期間は特に自分にとって刺激的な日常を送ることができたと感じた。
良かった点、特に配慮した点、反省した点など	学部に入り、授業の内容や課題の内容など不明な点が発生した際には、そのままにせず必ず直接もしくはメールを通してチューターに尋ねるようにし、理解のズレがないように心がけていた。前期には自分のコミュニティを広げるためにボランティアや部活に参加したり、もっと積極的であればよかったと後悔した。

学習成果レポートⅡ（帰国後報告） 2023 年度 2 期発

基本情報

留学先大学	台湾・台北市立大学				
留学制度	TESSⅡ	留学期間	1 年	学科	中国語
留学形態	実際に渡航しての留学				
履修コース	主に学部を履修（+語学科目を一部履修する場合も含む）				

学習面

授業理解度	何とか理解できた
学習成果	授業内容も徐々に理解出来るようになったが、話が込み入ったり、専門的な用語が使われると分からない。日常会話のスラングの部分も分からなかったら纏めて現地の友人に聞く習慣がついた。
目標達成度	おそらく達成できた（スコア/成績未入手の場合など）
努力したこと、効果があった勉強方法、反省している点など	分からない単語や文法を発見したときは自分で調べる以外にも友人に聞く習慣をつけた。難しい内容の会話でも積極的に話に食いついて自分の中で理解し、消化しようと努力した。

生活面

友人関係や生活の満足度	やや満足
その理由	留学を開始した前期間は友人にも恵まれ、学校(国際部)が開催するイベントが隔週あったおかげで非常に満足していたが、後期間はそのイベントが無くなったことで他の留学生や現地学生と交流する機械が減ってしまった。また後期に国際部の担当者が総入れ替えされたため、手続き等が大変になってしまった。
中間報告からの変化	頼りにしていた現地学生の友人が日本に留学してしまったため、他のクラスメイトを頼るしか無く、しかしすでにコミュニティが出来てしまっていたため、なかなか輪に入れず歯がゆい思いをした。他にも前期を共に過ごした仲が良かった留学生もほとんど留学終了に伴って帰国してしまったため、前期に比べると後期はかなり寂しかった。しかし、個人での観光や市内探索などのプライベートな時間が増えたため、それはそれでよかったと感じている。
良かった点、特に配慮した点、反省した点など	生活面では、前期に 3 回も風邪をひいてしまったため、後期は休養の日を多めに設けた。睡眠による休養のため、寝ている時間がもったいないとは感じたが、無理をするのは良くないと考え、メリハリをつけて生活した。また後期は心労が重なってホームシックになったが、友人と定期的におでかけすることで気を紛らわすことができたのは非常に良かった。